

龍谷大学大学院 国際文化研究論集

第15巻 2017年度

—目次—

〈論文〉

日本の高等教育のグローバル化における EMI (英語を媒介とする授業)
—理論的解釈、問題と言語イデオロギーの文献展望

..... テオ シュローガル

南方熊楠と中国白話小説
—『水滸伝』を中心に—

..... 劉 運涛

大谷光瑞と農業の関わり

..... 神谷 拓哉

〈研究ノート〉

「同人誌」考察
—著作権を超えて—

..... 森島 凌

龍谷大学大学院
国際文化研究論集編集委員会

**龍谷大学大学院
国際文化研究論集**

— 目 次 —

〈論 文〉

English Medium Instruction (EMI) in the context of internationalizing Japanese higher education:
a literature review of underlying rationales, challenges and language ideologies

日本の高等教育のグローバル化における EMI (英語を媒介とする授業)

—理論的解釈、問題と言語イデオロギーの文献展望

..... テオ シュローガル 5

南方熊楠と中国白話小説

—「水滸伝」を中心に—

Kumagusu Minakata and Chinese vernacular novels

—With a focus on the *Shuihu*—

..... 劉 運涛 19

大谷光瑞と農業の関わり

On Kozui Otani's Interest in Agriculture

..... 神谷 拓哉 33

〈研究ノート〉

「同人誌」考察

—著作権を超えて—

“Fanzine” Study

—Beyond Copyright—

..... 森島 凌 69

題目一覧	85
執筆者紹介	86
内 規	87
投稿規程	88
編集後記	89

2017 年度前期 修士課程 修了生 修士論文題目一覧

題 目	氏 名	(指導教授)
日中都城造営における風水思想の研究 —長安城と藤原京・平安京遺跡を中心にして—	王 旖 璟	徐 光 輝
宗教的多元社会における異文化交流について	李 奕 葦	三 谷 真 澄
日中人名文化について—日中大学生を中心に—	張 咪	劉 虹

2017 年度後期 修士課程 修了生 修士論文題目一覧

題 目	氏 名	(指導教授)
早期留学者の文化再適応の問題について —韓国人大学生の事例研究—	芝 田 大 地	松 村 省 一
日本語における二重否定表現 —中国語との対照研究を中心に—	呂 艷	史 彤 嵐
大谷光瑞と農業の関わり	神 谷 拓 哉	三 谷 真 澄
鶴見和子の詩作と学問— 斃れて後の自然観	寺 坂 友 希	松 居 竜 五
エデュテイメントの視点から考えるウガンダの HIV/AIDS 問題解決	松 永 瞭 太	斎 藤 文 彦
「同人誌」考察—著作権を超えて—	森 島 凌	杉本パウエンス ジェシカ
English Education at Primary School in Japan —Suggestions to Alleviate Problems Based on Experiences of Naha City	林 嘉 偉	チャブル ジュリアン
中国唐密の断絶と「唐密」復興 —釈持松の動向を中心として—	韋 傑	三 谷 真 澄
南方熊楠と中国白話小説 —『水滸伝』『金瓶梅』及び『紅樓夢』を中心に—	劉 運 涛	松 居 竜 五

執筆者紹介

(掲載順)

テオ シュローガル	本学国際文化学研究科	博士課程1年
劉 運 涛	本学国際文化学研究科	修士課程2年
神 谷 拓 哉	本学国際文化学研究科	修士課程2年
森 島 凌	本学国際文化学研究科	修士課程2年

龍谷大学大学院国際文化研究科研究論集内規

制 定 2002年12月11日

一部改正 2006年4月12日

一部改正 2010年6月2日

(目的と名称)

第1条 龍谷大学大学院国際文化研究科の院生による国際文化に関する研究を奨励し、その成果を発表する場を提供するため、「国際文化研究論集」を発行する。

(編集委員会)

第2条 「国際文化研究論集」の編集に関する責務を果たす編集委員会をおく。

- 1 編集委員会は、国際文化研究科に所属する若干名の教員により構成する。
- 2 編集委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 3 編集委員会の委員の互選による委員長をおく。
- 4 編集委員会の委員長は委員会を招集し、その議長をつとめる。

(投稿資格)

第3条 「国際文化研究論集」に投稿できる者は、下記のとおりとする。

- (1) 国際文化研究科に在学する者
- (2) 国際文化研究科修士課程を修了して3年を経過していない者
- (3) その他、編集委員会が認めた者

(論文募集・審査・掲載)

第4条 「国際文化研究論集」に掲載される論文は、別の投稿規程にもとづき公募し、応募論文については、編集委員会が審査をおこなう。

(論文の電子化)

第5条 掲載論文等の著作権は執筆者に帰属するが、本学及び国立情報学研究所等が論文等を電子化により公開するものについては、複製権及び公衆送信権の行使を国際文化研究科に委託するものとする。ただし、電子化による公開は執筆者の許諾を得たうえでおこなうものとする。

(事務)

第6条 「国際文化研究論集」に関する事務は、国際文化学部教務課がおこなう。

付 則

この規程は、2002年12月11日より施行する。

付 則 (2006年4月12日第2条第1項改正)

この規程は、2006年4月12日より施行する。

付 則 (2010年6月2日第5条新設、第6条繰下および名称変更に伴う改正)

この規程は、2010年6月2日より施行する。

『国際文化研究論集』 投稿規程

制 定 2003年 3月 5日

一部改正 2006年 1月18日

一部改正 2013年 7月24日

執筆要項

- 1 本誌は国際文化学に関する論文、研究ノート、書評などを内容とする。原則として、未発表のものに限る。
- 2 編集委員会の依頼による査読を行い、掲載・不掲載、書き直しの有無、掲載形式などを決定する。
- 3 論文の長さは次の通りとする。
 - a 論文はA4用紙（原稿の様式は第5項の通りとする。以下同じ。）で15枚までとする。
 - b 研究ノートはA4用紙で10枚までとする。
 - c 書評はA4用紙で5枚までとする。
- 4 和文原稿の場合は英文タイトルと英文要旨（150語）を、英文原稿の場合は和文タイトルと和文要旨（300字）を添付すること。また、論文・研究ノートには本文以外の言語による抄録（A4用紙で1枚以内）を添付すること。日本語、英語、フランス語、中国語、コリア語以外で抄録を書く場合には、事前に編集委員会に相談して許可を得ること。
- 5 執筆の細目は次の通りとする。

原稿はワープロ文書にてハードコピーと電子媒体を提出すること。

原稿の様式は、A4版の用紙に横書き一段組みで、余白は左右30ミリ、上下35ミリとし、ページあたり38字×37行で設定する。

本文のフォントは、和文の場合は明朝体でサイズ10.5ポイント（タイトルは12ポイント）、英文の場合はTimesでサイズ11（タイトルは12ポイント）を基本とする。

和文論文名は一重カギ（「」）、和文書名は二重カギ（『』）、欧文論文名はクォーテーション・マーク（" "）、欧文書名はイタリック体（または書名にアンダーライン）で表示すること。

投稿資格

原則として龍谷大学大学院国際文化学研究科修士課程・博士後期課程在学者ならびに研究生・特別専攻生とし、投稿の際、指導教員の推薦を受けること。ただし、編集委員会が認めた者はこの限りでない。

投稿先

龍谷大学国際文化学部教務課内「『国際文化研究論集』編集委員会」。

投稿期限

原則として発行年度の9月末日。

付 則

この規程は、2003年3月5日から施行する。

付 則（2006年1月18日「投稿資格」改正）

この規程は、2006年1月18日から施行する。

付 則（2013年7月24日「3、4、5、投稿資格」改正）

この規程は、2013年7月24日から施行する。

編集後記

原稿投稿してくださいました皆さま、快く査読依頼を引き受けてくださいました査読者の皆さま、円滑に業務が進むように支援してくださいました教務課の皆さま、株式会社田中プリント田中様、ありがとうございました。多くの関係者の方々にお世話になりました。記して深甚な感謝の意を表します。

CARLOS Maria Reinaruth D.
長尾 明子

龍谷大学大学院国際文化研究論集編集委員会

委員 CARLOS Maria Reinaruth D.

委員 長尾 明子

龍谷大学大学院国際文化研究論集

第 15 卷

2018年3月 発行

編 集
発 行

龍谷大学大学院国際文化研究論集編集委員会
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
電 話 075-645-5645

印 刷

株 式 会 社 田 中 プ リ ン ト
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
電 話 075-343-0006

**THE BULLETIN OF THE GRADUATE SCHOOL OF
INTERCULTURAL COMMUNICATION
RYUKOKU UNIVERSITY**

vol. 15 2017

—CONTENTS—

English Medium Instruction (EMI) in the context of internationalizing Japanese higher education: a literature review of underlying rationales, challenges and language ideologies

..... Theo, Slogar

Kumagusu Minakata and Chinese vernacular novels

—With a focus on the *Shuihu*—

..... RYU, Untou

On Kozui Otani's Interest in Agriculture

..... KAMITANI, Takuya

“Fanzine” Study

—Beyond Copyright—

..... MORISHIMA, Ryo

**Published by the Editorial Committee of
the Bulletin of the Graduate School of
Intercultural Communication
Ryukoku University**